

ご挨拶

第17 回へき地・地域医療学会 大会長

伊豆今井浜病院 名誉院長 小田 和弘

この学会は第14回より地方支部が主幹となり、協会の学術活動を地方から活性化していく試みがなされています。第14回の九州・沖縄支部、第15回の北海道・東北支部、第16回の近畿地方支部に引き続き、第17回は東海・北陸支部7県が主幹となりました。昨年の第16回学会のタイトルにある様に自治医大も「医療の谷間に灯をともして50年」を経過しました。私達が求めてきた地域医療は実は患者・医療者・地域の協同の上に成り立っているものだと、強く感じるようになりました。地域の精神的な豊かさに、我々自体が救われているのかもしれない。

今回の第17回学会はその様な思いを込めて「豊かなる地域医療～患者も地域も医療者も～」をメインテーマとして6月29日（土）30日（日）の2日間、東京都千代田区平河町の新海運ビルで開催させていただきます。

招聘講演は自治医大一期生の奥野正孝先生に「へき地は医者ステキにする」というタイトルでお話しいただきます。それを受けてのメインシンポジウムには、長い間、福井県の地域でご活躍の名田庄診療所所長の中村伸一先生、岐阜県の地域でご活躍の後に宮崎医大教授になられた吉村学先生、兵庫県でご活躍の後に自治医大循環器内科教授になられた苅尾七臣先生という豪華なシンポジストの先生方に御登壇願うことができました。打ち合わせも盛り上がり、本当に楽しいシンポジウムになると期待されます。

各県が担当してくれたテーマプログラムも多岐にわたり、しかもそれぞれタイムリーな内容となっております。テーマのみ紹介させていただきますが「患者さんのための医療とは何か?」「令和6年能登半島地震：被災地の今と地域医療の未来」「総合診療医のキャリアパス」「医師の働き方改革で、地域医療はもっと魅力的になる」「地域医療における Well-being」「待ったなし?!医療の再編・ダウンサイジングの事例から今後のへき地・地域医療を考える」と盛り沢山です。

忙しい日々の診療の中でも、実行委員の先生方が問題意識を持ちながら医療に向き合っているのがよく分かります。一般演題も予想をオーバーするほど寄せて頂きました。義務明けの卒業生が9年間の業績を発表する高久賞にも例年以上の応募を頂きました。今回はオレゴン健康科学大学の Jinnell Lewis 先生による特別講演も予定されています。

会場に来られない皆様にはWEBでの配信もあり、当日はご都合が悪い方、内容が濃くて深い為、何度でも見たい方々にはアーカイブでの配信もあります。

皆様方の明日からの医療にきっと何らかのヒントや刺激を与えられる内容となっていると自負しております。

ここまで、この学会を作り上げて下さった各県の実行委員の皆様、本部事務局の皆様理事の諸先生方に感謝申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。